

Q14：施設内を清掃する際の効果的な方法はありますか？

A14：使用前の掃除（有機物除去）をしっかりと行って下さい。またモップやタオル等も事前にAP水で除菌した上でご使用下さい。（汚染されたものでの清掃は菌を撒き散らすこととなります）AP水はコストが安く、耐性菌にも有効であるため、大量にご使用いただくことでコストメリットと効果が期待できます。

● 歯科領域における質問

Q15：院内での使用用途は？

A15：以下事例において評価いただいています。

1. 手洗い
2. 器具の除菌・洗浄
3. 院内の除菌・消臭
4. 印象面の除菌・洗浄
5. 臨床への応用

Q16：手洗いの方法は？

A16：AP水の流水下でスクラブしていただくことが効果的です。電解水での手指洗浄については、2分以上の洗浄が望ましいが、適切な方法（徹底したスクラブ）で行えば10秒～20秒で効果が期待できるとの文献があります。また血液や唾液が付着している場合は石鹸等を用いて汚れを落としてからご使用下さい。

Q17：器具洗浄の方法は？

A17：医院によってさまざまですが一例として以下の方法があります。

1. AP水と同時に生成する「強アルカリ水」を水道水で約100倍に希釈して器具を浸漬
2. AP水の流水下で洗浄
3. 水道水の流水下で洗浄（腐食予防が目的。特に腐食しやすい器具は防錆剤に浸漬）
4. 乾燥～保管（滅菌器にかけられるものは滅菌器へ）

薬剤使用時にかかるコストや健康への影響の低減、また2.の洗浄工程において除菌しながら洗浄できることから飛沫、裂傷による2次感染のリスク軽減が期待できる点を評価いただいています。

Q18：B型肝炎ウイルスへの効果は？

A18：B型肝炎ウイルスの感染性消失試験は「培養・試験できる施設が少ない」「ヒト・チンパンジー以外に感染しないため動物実験を行うことが困難」との理由から実施できておりません。しかしながら、AP水の主成分である「次亜塩素酸」はWHOによりB型肝炎ウイルスに有効とされていること、最も薬剤に対して抵抗性が強いとされる「芽胞」に対してAP水は有効であることから、その効果は十分期待できると考えます。またAP水は毒性・刺激性が少なく簡易に使用できるため、自覚症状の無い感染症の方（問診表で報告されない方）への対策としてご使用いただくことで、感染予防システムのレベルアップにつながる点を評価いただいています。